令和６年度インターンシップ実施報告書ダイジェスト版

インターンシップ報告会

10月22日、23日にインターンシップ報告会Ⅰ（グループディスカッション）を、10月31日に全学生に公開の形でインターンシップ報告会Ⅱ（代表者による体験発表）を実施した。
報告会Ⅰでは、インターンシップ参加者が、ポスターセッション形式で、それぞれの実習概要、成果や今後の目標などをグループ内で報告した。その後、グループディスカッションを通してインターンシップの振り返りを行い、さらに考察を深めた。全体会でそれぞれのグループ協議内容を報告し、共有を図った。その後、就職活動を終えた昨年度本インターンシップ参加の4回生から、就職活動体験談および今後のアドバイスをしてもらった。
報告会Ⅱでは代表者の発表を聞き、互いに学びを深めるとともに、現在社会で活躍中の先輩から貴重な講話をいただき、社会への理解を深めた。
以下は、報告会Ⅰのグループの協議内容の抜粋である。

① インターンシップ　就業体験を振り返って

（ア）どのようなことを学んだか
A　仕事や職場に係わること
・コミュニケーションの重要性
・管轄による違い
・仕事への理解・責任
・臆せず質問することの大切さ
・素早く正確な作業
・大学での学びが役立つこと
・チームワークの大切さ
・報・連・相の大切さ
・職場の雰囲気
・挨拶の大切さ

B　自己の能力や適性、姿勢などに係わること
・コミュニケーション力の必要性
・人の話を聞く力
・積極的に動くこと
・スケジュール管理の大切さ
・多角的な視点を持つ
・仕事をするうえでの日々のリズム
・Plan（計画）Do（実行）Check（評価）Action（改善）の重要性
・先を見る力
・笑顔とあいさつの大切さ
・専門的知識の必要性
・自ら学ぶ姿勢
・メモの大切さ

C　有益な指導や助言
・自分の軸を持て
・マナーにこだわりすぎない
・信用の積み重ねが大切
・違う意見も柔軟に受け入れることの大切さ
・経験を積む
・自分磨きの大切さ
・日ごろから情報収集

・わからないことはすぐに聞く
・大学と現場における意識の違い
・能力だけでなく人間性も大切
・通勤時間を有効に利用し資格をとる
・目的を持ち共有すること

(イ)社会人として働くうえで必要と思う資質
・十分な知識
・向上心
・計画性
・判断力・根気
・あいさつができること
・自身の健康
・パソコン技術
・コミュニケーション力
・自己の限界を知る
・協調性
・優先順位をつけること
・臨機応変に対応する力
・責任感
・上司に相談する勇気
・仕事への誇り

(ウ)これからの具体的な自己目標
(就きたい業界・職種、進路など)
・公務員関係
・営業職
・サービス業
・福祉関係
・技術職
・製造関係
・大学院への進学
・クリエイティブな業界

(必要な能力・取り組んでいきたいことなど)
・コミュニケーション力
・常に学ぶ姿勢
・冬のインターンシップへの参加
・専門的な知識をさらに増やす
・自己分析と業界分析を進めること
・英語力の向上
・積極性
・幅広い知識、理解力
・自己アピール力
・情報収集
・プレゼン力
・SPI の勉強

これからインターンシップに参加する後輩へのアドバイス(抜粋)

① 参加することに迷っている後輩へ

・インターンシップは、その業界や職業について学んだり、実際に社員・職員の方々がどのように仕事をされているかを見学する場であるのはもちろんであるが、社会人の生活リズムを身につける良い機会にもなると思う。大学生の私たちは、1限から授業がある日もあれば、午後から授業がある日もあるが、社会人になると基本的には朝決まった時間に出社し、決まった時間に帰宅する(残業がある場合もある)という

生活サイクルができあがる。明日朝早く起きて、さらに日中も仕事がはかどるように、夜はしっかりと睡眠をとらないといけなかったり、睡眠のためにご飯は作るのも食べるのも片付けるのも早く済むものにしたりするなど、インターンシップ中以外でも気を遣うことが多々あった。短期間ではあるが、このような生活習慣に慣れる機会・社会人になればこのような生活習慣になるという心構えをしておく機会としても、今回のインターンシップは有意義なものであったと思う。
・参加しようか迷っているなら、ぜひ参加してほしい。わからないことがあっても、大学からのサポートがあるため、安心して参加できると思う。大学協定型インターンシップを行っている企業が大学に来られて、事前にお話を聞くことができるため、会社の雰囲気などを知ることができ、インターンシップ先を選びやすいと思う。また、大学でのマナー講座を受けられ、その後にも役に立つと思う。自身の専門分野でなくても、経験してみることが大切だと思う。様々な方と交流する機会があるため、コミュニケーション能力の向上につながると考える。新しい一面の発見や成長につながると思う。
・インターンシップに参加したいと考えている学生は、ぜひ協定型インターンシップに参加することをおすすめします。自由型インターンシップと違い、協定型インターンシップは実際の業務を長期間体験できるため、より多くのことを学ぶことができます。うまくできるか不安な方もいらっしゃると思いますが、最初から完璧にできる必要はありません。知識不足や敬語が拙くても、実習に真摯に向き合えば、職場の方々も親切丁寧に指導してくださいます。参加しても損は一切ないので、ぜひ参加をおすすめします。
・自分が興味を持っていない業界でインターンシップをするか迷っている方がいたら挑戦してみてほしいです。私自身、協定先に志望する業界がなく、はじめは参加するか迷っていました。しかし、その業界が自分にあっているかどうかを発見することができる機会になると思います。また、インターンシップを通して企業の雰囲気や裏側、実態を知ることができます。自分で長期の大手企業のインターンシップをエントリーしようとすると、2次選考まである場合があり、参加するのに難しい場合があります。しかし、大学協定インターンシップは難しい選考はないので、企業理解をするためにぜひ活用してほしいです。もし、インターンシップを通してその業界・企業が合わなかったとしても、そのことに気づけたことに意味があると思います。インターンシップを通してきっと何かしら新たな学びや発見があると思います。
・私は公務員の仕事を体験し、公務員として働く具体的なイメージを身に付けるためにインターンシップに参加したが、実際には実習場所も市役所ではなく、市が業務委託している施設での実習で、直属の上司にあたる人も私と同年代か年下のスタッフの方々だった。正直思っていた実習とは異なる部分が多く、不満が残ってしまった。そのため、インターンシップ先を選ぶ際は受入意向調査票をよく読んで応募したほうが自分のためである。ただ、思っていた内容と違うからといっていい加減な働きをするのではなく、自己理解や自己の成長に繋げようとすることが何より大事だと感じた。私はインターンシップで関わった方々に積極的に質問をしたり、活動の改善案を出すことで、自身の中での福祉分野への興味増進や施設の子どもたち・職員の方との関係性の構築に繋げることができた。今後も継続して施設の活動に参加したいと思っている。

② 時期・期間および志望先について

・そもそもあんなに大きい工事現場の中に入らせてもらうことはないし、現場の社員さんと１対１で話せる機会は本当に貴重だと思うので積極的に質問すること。また、熱中症と安全には気を付けること。
・私は、志望業界をまだ絞り切れていない状態でインターンを申し込みました。この夏は業界研究のために、大学の協定型インターンシップと企業ホームページからのインターンシップの2つに参加しました。どちらも環境産業の技術サービス系の企業で、5日間のインターンシップだったため、自身が興味のある業務だけでなく関連した業務を体験することもでき、仕事に対する視野が広がった。1日など短期型のインターンシップには参加したことがないが、複数日のインターンシップの強みとしては、日が経つにつれて緊張がほぐれて、自分らしさを出しやすくなったり、1つの業務・部署についてより詳しく体験できることだと感じました。何社も比較することも大切かと思いますが、1社を深堀してその知識を基盤として業界研究していくことも1つの手かと思います。
・まずは、インターンシップに参加することが重要であると思う。私は、これから就活に力を入れて始めるためのきっかけとして大学協定型のインターンシップに申し込んだ。それ以降は、自分から積極的に1日から5日間のインターンシップにも10社以上受けるようになった。ここまで受けてきて、ようやく業界への理解や企業の比較ができるようになり、グループディスカッションやその他のビジネスマナーなどが身についてきた。そのため，1社だけで満足するのではなく是非いろいろな会社を受けてほしいと思う。最後に、インターンシップを受けるために一番重要な能力は、コミュニケーション能力である。話がうまくなる必要はないが、自分の考えを的確かつ簡潔に伝えることと積極性が必要になる。私もインターンシップを受ける中で、話しかけても返事がうまくできない人や、答えになっていない返答をする人、無駄に話が長い人などをよく見かけた。自分自身も元々コミュニケーションが苦手であったが、克服するために接客業のアルバイトを選び、強制的に成長させる環境を築いた。コミュニケーションに自信がないという人は、これが一番の近道です。

③ 事前準備について

・当該分野に関する知識はある程度持っておいた方が良い。業務の内容の理解が深まるし、スムーズに話を聞くことができる。わからないことがあったら、すぐ聞く。やさしく教えていただける。質問は少しでも多くしたほうが良いし、一つでも多く絞り出すイメージで話を聞くべきだ。また、受験方法や入りやすさ、実際に仕事を体験されて、感じたことをできるだけ聞くべきだと思った。部署による入りやすさなども教えていただけたし、良いことだけではなく、大変な業務があるかどうかを聞くことも大切だと考える。インターンシップに行く前に、あらかじめ質問したい内容を考えておくといいと思います。例えば今までで一番大変だったことや、やりがいなどです。またインターンシップにはできるだけ対面で参加してみることをお勧めします。オンラインにもメリットはありますが、対面だと職場の雰囲気がとてもよく分かります。
・5日間のインターンシップでは想像以上に職員の方と話せる貴重な機会が多くあり

ました。その中で、基本的であるものの自分が不足していたと考える点を挙げるとすれば、採用関係・業務内容関係なく様々な気になることや聞いてみたいことを事前にきちんと考えておくことです。リスト化まではいかなくても、「実際のところはどうなのかな？」と思うことを前もって頭に浮かべておくと、職員の方と話す機会があった時にスムーズに聞くことが出来ます。わたしはあまり考えておかなかったためその場で気になったことを聞いていましたが、あとから思いついたりしたことが少し心残りになりました。人事課の方も職員の方も、採用試験のこと等細かなことまで親切に答えてくださったので、その機会を活かせるような事前準備は必要だと感じました。
・インターンシップ参加においては、事前準備を怠らないことが大切だと感じた。準備物や当日の集合日時をしっかり確認し、メールなどのやり取りを怠らないことが大切である。メモ帳やペンの準備は必須である。また、インターンシップでは可能な範囲で社員の方に質問してみると良いと思う。働くときの意識など、ここでしか聞くことができないことが多くある。社員の方との交流では所属している学部学科や勉強していることについて質問されることがあるため、ある程度説明を考えておくと良い。
・自分の考えていることを言語化してみましょう。社員の方に質問をする機会があると思いますが、その時に自分が、何を分かっているか、何を分かっていないかが把握できていないと、相手に状況を説明することができず、質問をすることもできません。また、思考の整理をすることで、新たな発見があるかもしれません。一度、自分の頭の中のことを紙に書いてみるなどして、言語化してみることをおすすめします。

④　参加する上での態度や心がけ

・緊張せずに初日から積極的に声をかけたり、質問できたりすることはとても素敵だと思います。ただ、インターンシップに挑戦していくと、中々そうできない場所に巡り会うこともあるかもしれません。その時は「鋭い質問をしよう」「上手に話そう」などよりも「話す時は笑顔でいよう」と思えればそれで完璧です。笑顔が一番素敵な表情である事はゆるぎない事実だと私は思っています。質問は皆さんが糧になると自分で思ったものを、皆さんが今使える言葉で伝えられれば、それで十分です。ただ笑顔は、笑顔だけは話す時にぜひ心がけてもらえるといいと思います。皆さんが、素敵なインターンシップ期間を過ごせるように心から願っています。心身共に壊さないように自分を大切にしながら、インターンシップを楽しんできてくださいね！
・まず、第一に緊張しすぎないこと。受け入れ先の方々は私達を良くも悪くも「学生」として見てくださいます。つまり、何か成果を残してほしいと思っておられるわけではなく、純粋に「この職に興味を持ってほしい。」「若い人の意見が聞きたい。」と思っておられる方が殆どだと感じました。肩ひじ張らず大船に乗った気持ちで参加しましょう。
・これは個人的なものですが、「すみません」よりも「ありがとうございます」を使えるようにしておくと良いかも。謝ってばかりだと自分の気分も落ち込みます。感謝をすることで相手も自分も気分がよいし、もし失敗してもちょっと前を向けます。

⑤　その他感想や参考事項

・技術的な内容の実習にうまく取り組めるか悩んでいる学生は、心配せずインターン

シップに参加してほしいです。私の実習先でも初めて行う実習があったが、社員の方々が丁寧に指導してくださり問題なく作業することができました。また、社員の方々と一緒に作業をするため、気軽に質問することができることから業務に対しての理解が深まります。インターンシップは、単に企業や業務内容を知るだけでなく、必要なスキルや仕事で重要な意識など自分に足りていないものを理解する貴重な機会なので、ぜひインターンシップに参加してもらいたいです。作業面以外では、インターンシップの実習内容に工場の見学や外回り等がある場合、小さいメモ帳か下敷き付きのものを用意した方が楽にメモができると思います。また、持ち物、会社までの経路を事前に確認しておくことや実習先から大学で学んでいることなどの質問をされることがあるので、分かりやすく説明できるようにしておいた方がいいです。
・私の場合，今回のインターンシップで自分に適したインターン先を見つけることができた一番の要因は，インターン前に人事の方と直接お話できたことだと思います。やはり，自分で情報を得ようとしても，個人の力では，限界があります。ですので，積極的に企業の方と話をする機会をつくることをオススメします。
・まず私が何より大切だと感じたのは体調管理です。インターンでは慣れない環境で数日間業務をすることになる上に、夏におこなわれることが多いので、熱中症になりやすくなります。インターンに行く場合、生活習慣の改善をすることや無理をしないことというのは非常に大切なことだと思いました。また、インターンに行った際は必ず記録をした方が良いです。協定型インターンシップでは強制的に記録を書くことになるので問題ないですが、個人的に行く場合だと記録をすることをついつい忘れてしまうと思います。しかし、後から振り返る時や就活の時にインターンの記憶が曖昧だとスムーズに行えないため、記録は必ずするようにしましょう。
・挨拶と時間厳守は本当に意識したほうがいいです。時間は早すぎてもあまり印象が良くないため、10分前につくようにすることが個人的にいいと思いました。

大学に対する受入先企業・団体からの意見・要望等 （抜粋）

①インターンシップの制度に関すること

・既にご承知のことと思いますが実習期間はわずか5～10日といった極めて短期間ですので実習できる内容はわずかな範囲に留まります。できるだけ体験させてあげたいと様々な形で詰め込みますが、それでもその一端であることをご理解ください。また履修単位として、5日間（残業含め約50時間）の課外日報作成などを含めての単位数1は若干可哀そうな気もします。
・5月に貴学で開催されたインターンシップ企業説明会に参加し、学生に直接説明できたことが大きかったと思います。長きにわたりご対応いただき、ありがとうございました。
・インターンシップを終えた学生さんがどのように学内で報告され、今後に繋げられるのか気になります。参加された学生さんの感想も知れると、受け入れ所属として今後の参考になります。
・協定型のインターンシップで会社としても安心して実施することができました。

②就業体験の内容などに関すること

・「農業職希望」という事前レポートをいただいておりましたので、現場において普及指導の実習を計画しました。今後とも具体的な目標をもって実習に臨んでいただけると実習計画が組みやすいと感じています。
・情報システム部としては初めての実施でしたので、直接的に学生に向けて、当部の職場・仕事を見ていただけた事に感謝しております。引き続き、継続的に実施できれば幸いとの思いでおります。
・指導者自身の通常業務が立て込む中、実習生にはじっくり時間をかけて取り組むことが求められるデータ収集と資料作成に取り組んでいただき、所としても力を貸していただけました。

③事前研修・事前打ち合わせなどに関すること

・結果的に問題はありませんでしたが、天候不良が重なり、出席が厳しい日が出てくる件に関して、初日にインターン生より大学の対応について回答がいただけると、学生本人が対応を把握している点の確認にも繋がりますので、事前に対応を共有していただければありがたいです。
・今回写真が必要とのことだったので、撮らせていただきましたが、どのような写真が必要なのか事前に明示してほしい。

④学生に関すること

・就業に対して意欲的な素晴らしい学生さんにインターンシップに来ていただいたと思っております。昨年度に続きありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。
・いつも志の高い学生さんが来てくださるので、私たちスタッフにとっても良い刺激をたくさんいただいています。引き続き、今後ともよろしくお願いいたします。
・インターンシップに参加する目的をはっきりと持った学生を推薦して頂けると、事業所として業務の時間を割いて講義したかいがあったと実感しているところです。今後も引き続き、学生に対して、目的をはっきりと持ってインターンシップに参加するようにご指導をお願い致します。

⑤その他

・昨年も受け入れをさせていただきましたが、今年は実習日誌の記入等をデータでのやり取りで行うことができたため、非常に助かりました。昨年の要望にて記載させていただきました点でしたので、改善していただき、ありがとうございました。
・実習後の率直な感想（職場の雰囲気や労働環境など）をお聞かせいただきたいです。
・普段の授業では学習できないことについて学ぶ貴重な機会かと思います。実習生からも同様の意見がありましたので、来年度もまたよろしくお願いいたします。

今年度のインターンシップの成果と今後に向けて

① インターンシップの成果

令和6年度のインターンシップガイダンスは、令和4年6月の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」（いわゆる三省合意）に基づき、本学の2年生・3年生・院生を対象に4月下旬に実施いたしました。

この三省合意では、就業体験等一定の基準を満たしたインターンシップにおいて、各事業所が取得した学生情報を広報活動や採用選考活動に使用できることになっています。こうしたことを、事業所・学生の双方が好機ととらえインターンシップへの期待が高まったように感じています。学生からの事後アンケートや事業所からの評価からもその成果を実感しているところです。夏季休業中の一定期間にわたる就業体験で、学生たちは様々なことを感じ、学び、一気に成長したことを、実習後のレポート、実習報告会の様子から感じ取ることができました。それぞれの体験が、これからの大学での学びや、キャリア選択に活かされるものとおおいに期待しています。

ア）学内ガイダンスへの出席者は年々増加しており、今年度は約 400 名の学生が参加しました。また、インターンシップに賛同いただける企業・公共団体も約 160 となり、この数も増加傾向にあります。今年度は5月の連休明けに「県大インターンフェス」と銘打ち、多くの企業・団体様に県大に集結いただき、学生に対して丁寧なインターンシップの説明をいただきました。事前理解が深まったこともありインターンシップに参加した学生約 90 名の満足度は 4.74（5点満点）と極めて高い数値となりました。これにより、学生が所期した参加目的・目標が達成されたものと考えられます。今後もこうした取組を進め、よりよいインターンシップを推進したいと考えています。

イ）参加学生は、試行錯誤を重ねながら与えられた業務に一生懸命に取り組み、それぞれの実習先で職場の方々から丁寧に指導を受け、有意義な話を伺うことで、自己の強みや課題に気づき、成長を感じています。同時に、組織として業務を遂行するには、相互のコミュニケーションやチームワークがとりわけ重要であると実感しているところです。特にコミュニケーション能力の必要性については、事後に行ったすべてのグループディスカッションにおいてキーワードになっていました。

ウ）就業体験期間中に本学職員で県内の実習先を訪問させていただきました。受入先に対する理解が深まり、丁寧な指導や様々な配慮もしていただいているこ

とが感じられました。また、お忙しいなか、実習日誌に、ほぼ毎日講評・反省点を記入していただきました。実習生は、毎日振り返りをすることにより、多くのことを学ばせていただいたようです。ご協力に心より感謝いたします。

エ)インターンシップの受入先の拡大については、求人票に検討する旨を記入いただいている事業所や、卒業生がお世話になっている事業所等に問合せを行い、3月下旬に受入の可否を確認しました。

本学ホームページ(https://www.usp.ac.jp/shushoku/intern/)に受け入れ依頼と受け入れに必要な書類を掲載しています。インターンシップ生の受入可能な企業および団体様は、所定の様式にて本学にご連絡ください。

② 今後に向けての検討課題

ア)実習日および実習期間について

本学のインターンシップは夏季休業期間中に設定しています。実働期間は先述いたしました三省合意に則り、原則5日間以上でお願いしています。参加学生へのアンケート結果では、適当な実習期間として、1週間程度(5日間程度)と答えている学生が 75%となっております。その一方で、実習期間として、2週間程度(10 日間程度)の継続性のある業務や課題に取組む経験(課題解決型実習)を望む学生も 22%ほどおり、期間が長いほど実習後の満足度も高い傾向にあります。とはいえ、受入先にとっての負担は、長期間になるほど大きくなるため、期間の設定は、実習内容と負担のバランスを考慮し、今後も受入先にて決定していただきたく思います。

夏季休業期間中であっても集中講義、部活動やサークル活動(大会等)等で日程の調整がつかず、参加を断念する学生もいます。そのため、ご指導に対して負担をかけることになりますが、実習日数はできるだけ確保し、実習期日をある程度柔軟に(受入れ先と学生が協議のうえ)設定することが可能であるならばさらに多くの学生の参加が可能になると思われます。

イ)実習プログラムについて

受入が決まった段階で、できるだけ早期に実習プログラムを学生に示していただくように依頼しています。学生は協定型インターンシップを夏の最重要課題と位置付けており、まずはこの日程が決まらないと他が決まらないということになっています。実習の期日や内容は、原則として受入側で決めていただいていますが、学生の興味や希望を知ったうえで実習プログラムに反映していただいたところもありました。学生は、申込時に事前研究として、企業研究をしたうえで

実習目的や体験内容の希望をレポートに書き、受入先に提出しています。このレポート作成時に、できるだけ具体的に志望理由や興味関心のある業務、現在勉強していること等を明記するよう今後も指導する必要があります。また、電話等学生と事前打ち合わせをしていただけるとさらに相互理解が深まり実習への意欲が高まると思われます。

ウ）受入先と大学の連携について

インターンシップをより良いものにしていくには、受入先企業・団体と大学との連携が不可欠です。今後も連絡を密にし、インターンシップの目的と意義を共有し、状況を見極め柔軟に対応しながら、学生のキャリア選択の軸の形成に寄与できるようにご協力をお願いします。